

## 日本海藻協会ニュース

2010年12月15日

### I. 協会事務局からのお知らせ

#### 1. マリンバイオテクノロジー学会大会の協賛

マリンバイオテクノロジー学会から依頼のあった2011年5月28日(土)・29日(日)に開催予定のマリンバイオテクノロジー学会大会を理事会の承認を経て協賛することになりました。下記「海藻関連ニュース」をご参照下さい。

### II. 海藻関連ニュース

#### 1. 第14回マリンバイオテクノロジー学会大会 (本協会協賛)

マリンバイオテクノロジー学会主催の第14回マリンバイオテクノロジー学会大会が2011年5月28日(土)～29日(日)にグランシップ(静岡県コンベンションアーツセンター)で開催されます。詳細は後程マリンバイオテクノロジー学会のウェブサイト <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmb/>に掲載される予定です。

#### 2. 第4回国際応用藻類学会議 (ISAP-2011) (新情報を追加)

国際応用藻類学会 (International Society for Applied Phycology, ISAP) 主催の第4回国際応用藻類学会議 (The 4th Congress of the International Society for Applied Phycology, ISAP-2011) がカナダのハリファックス (Halifax) で2011年6月19-24日に開催されます。総合タイトルは「応用藻類学における新しいチャンスの拡大」(Scale-up for New Opportunities in Applied Phycology)です。カナダのNational Research Council (Institute for Marine Biosciences) が世話を担当し、会場はHalifax Marriott Harbourfront Hotelが予定されています。藻類の増養殖、利用、企業化などに関する専門家の世界各地からの参加が期待されています。

早期参加登録の締切りは2011年5月1日、宿泊申込み締切りは2011年5月15日ですが、講演要旨提出期限は2011年2月11日です。講演要旨提出については [www.isap2011-halifax.org/160-callabstracts\\_e.shtml](http://www.isap2011-halifax.org/160-callabstracts_e.shtml) を、会議

全体については [www.isap2011-halifax.org](http://www.isap2011-halifax.org) をご覧ください。

ISAP-2011 組織委員会のアドレスは [ISAP2011@nrc-cnrc.gc.ca](mailto:ISAP2011@nrc-cnrc.gc.ca) です。

### 3. 第5回ヨーロッパ藻類学会議

ヨーロッパ藻類学会連合 (European Union of Phycological Societies) 主催の第5回ヨーロッパ藻類学会議 (The 5th European Phycological Congress, EPC5) が "Exploring the Phycocosmos: A European Perspective" をテーマに 2011年9月4-9日にギリシャのロードス島 (Rhodos Palace Hotel) で開催されます。詳細はウェブサイト [www.epcv.gr](http://www.epcv.gr) をご覧ください。

### 4. 第6回アジア太平洋藻類学フォーラム (APPF 2011)

アジア太平洋藻類学会 (Asian Pacific Phycological Association) 主催の第6回アジア太平洋藻類学フォーラム (Asian Pacific Phycological Forum, APPF 2011) が 2011とし10月9-14日に韓国麗水市で開催されます。

詳細は追ってお知らせします。

## III. カレンダー

2011.5.28-29. 第14回マリンバイオテクノロジー学会大会 (静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」)

2011.6.19.-24. 第4回国際応用藻類学会議 (ISAP-2011) (カナダ、ハリファックス)

2011.9.4-9. 第5回ヨーロッパ藻類学会議 (ギリシャ、ロードス島)

2011.10.9-14. 第6回アジア太平洋藻類学フォーラム (韓国、麗水)

## IV. 新刊書紹介

(1) 山田信夫 著 海藻と育毛. A5判, 232頁, 定価 2,940円 (税込), 成山堂書店 (2010).

(2) 稲田博史・有元貴文・長島徳雄・飯田浩二 編 漁灯を活かす技術・制度の再構築へ (水産学シリーズ 166). A5判, 176頁, 定価 3,789円, 恒星社厚生閣 (2010).

## V. 海藻 Q & A

Q 33— “かわたけ” とはどんな藻類ですか？

A— ネンジュモ科ネンジュモ属に属す淡水産の藍藻です。カワタケ (*Nostoc ver-rucosum*) は多数の藻糸が寒天質の中に不規則に集合して粘性のある塊状のコロニーをつくります。その塊は “くずもち” あるいは “きくらげ” のよう

な外観で、藍色、青褐色、黄緑色、黄褐色をしています。河川や溪流などの清澄な水の中の岩の表面や水草あるいは茸の茎や葉に着生し、四季を通じて生育しますが、寒中のものが最もよく賞味されます。澄し汁（吸い物）や三杯酢などの具として用いられます。京都府加茂川産のものは“加茂川のり”，滋賀県姉川産のものは“姉川くらげ”，富山県庄川産のものは“茸附”（あしつき），九州や中国地方では“川茸”（かわなば）などと呼ばれてきました。茸附の名は万葉集の中にも見られるので、古代から食用にされていたと考えられますが，食品としてはローカルなもので産業的レベルの生産は行われてこなかったようです。“すいぜんじのり”と混同されることがあるようですが，学術的にはスイゼンジノリ (*Phylloderma sacrum*) とは区別されるものです。

### これまでのQ&A

**Q1**－「海藻」と「海草」は同じですか。(No.2 に掲載)      **Q2**－ノリの「色落ち」って何ですか。(No.2 に掲載)      **Q3**－海藻が多様な色彩を呈するのはなぜか？(No.3 に掲載)      **Q4**－コンブやワカメは湯通しするとなぜ緑色になるのか？ 焼き海苔はなぜ緑色か？(No.3 に掲載)      **Q5**－海苔が湿気ると赤紫色になるのはなぜか？(No.3 に掲載)      **Q6**－テングサという種名の海藻はないのですか？(No.4 に掲載)      **Q7**－「うみぶどう」は海藻の名前ですか？(No.5 に掲載)      **Q8**－「キラー海藻」って何？(No.6 に掲載)      **Q9**－日本の海苔は輸出されていますか？(No.6 に掲載)      **Q10**－「髪菜（はっさい）」は海藻ですか？(No.7 に掲載)      **Q11**－中国で栽培（養殖）されているノリは日本のノリと同じですか？(No.8 に掲載)      **Q12**－「岩のり」と「青のり」は違うものですか？(No.9 に掲載)      **Q13**－「心太」と書いて「トコロテン」と読むのはなぜですか？(No.10 に掲載)      **Q14**－「鰐浦こんぶ」はコンブですか？(No.11 に掲載)      **Q15**－日本産海苔の輸出状況はどのようになっていますか？(No.12 に掲載)      **Q16**－「磯焼け」って何？(No.13 に掲載)      **Q17**－「寒天」と「ところてん（心太）」はどう違うのですか？(No.14 に掲載)      **Q18**－「はんぱ」って何？(No.15 に掲載)      **Q19**－「みずこんぶ」（水こんぶ）とは？(No.17 に掲載)      **Q20**－わかめ（若布）の製品にはどのようなものがありますか？(No.18 に掲載)      **Q21**－有毒な海藻はありますか？(No.19 に掲載)      **Q22**－「とろろこんぶ」（商品名）はトロロコンブ（種名）からつくられますか？(No.21 に掲載)      **Q23**－カワノリは淡水産ですか？(No.22 に掲載)      **Q24**－「のりの佃煮」の原料海藻は何ですか？(No.23 に掲載)      **Q25**－“ドゥルー祭”について教えてください。(No.24 に掲載)      **Q26**－“ISA”と“ISS”について教えてください。(No.25 に掲載)      **Q27**－「すいぜんじのり」ってどんなノリですか？(No.26 に掲載)      **Q28**－サンゴにはどんな藻類が共生しているのですか？(No.27 に掲載)      **Q29**－オイルをつくる藻類があるというのは本当ですか？(No.28 に掲載)      **Q30**－ジャイアントケルブはコンブの仲間です(No.29 に掲載)      **Q31**－マツモはどのような食べ物ですか？(No.30 に掲載)      **Q32**－ノリの「種付け」って何ですか？(No.31 に掲載)      **Q33**－海藻はどのくらい海を浄化しますか？(No.32 に掲載)

☆☆

この協会ニュースは、主として会員の皆様からの情報・資料に基づいて、月1回（毎月15日付で）発行されます。情報・資料を下記宛にご提供下さい。

〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-1-11 第一坂本ビル 7F

マリン・サイエンス株式会社 内

## 日本海藻協会事務局

編集者：有賀祐勝 ([arugay@mx4.ttcn.ne.jp](mailto:arugay@mx4.ttcn.ne.jp))

☆☆